

# ブックトーク

実践のコツ&本の選び方



山梨県立図書館  
YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY



## はじめに

当館では、子どもの読書活動の実践に役立つガイドブックとして、昨年度の「読み聞かせ ー実践のコツ&絵本の選び方ー」に引き続き、「ブックトーク ー実践のコツ&本の選び方ー」を作成いたしました。

ブックトークは、読み聞かせから一歩前進し、自ら読書する子どもを育てる方法として注目され、学校や公立図書館などで実践されています。

この冊子は、学校や公立図書館などで、集団を対象に、これからブックトークをやってみたいと考えている方に向けたガイドブックです。テーマや本の決め方から、紹介の方法、準備と練習、実践のポイントまでブックトークの基本をわかりやすく紹介します。

子どもが本に出会うきっかけづくりとなるブックトークに、あなたもチャレンジしてみませんか？

## 目次

はじめに .....	1
1 ブックトークとは .....	2
2 やってみたいブックトーク .....	3
(1) テーマと本を決める .....	3
「テーマによるブックトーク」選書事例 .....	5
「一冊から広がるブックトーク」選書事例 .....	6
(2) 全体の構成、紹介の方法を決める .....	7
(3) 準備と練習 .....	8
シナリオ事例「石の不思議」 .....	10
(4) ブックトーク本番 .....	13
(5) 振り返り .....	13
3 その他 .....	14
(1) 著作権について .....	14
(2) 参考図書 .....	14



# 1 ブックトークとは

## ブックトークとは

ブックトークとは、あるテーマに沿って何冊かの本を順に紹介し、子どもたちに紹介した本や読書への興味を持たせる方法・技術です。

絵本の絵を見せながら、一冊を最初から最後まで読んで聞かせる読み聞かせとは異なり、その本の一番のおすすめポイントを見せたり聞かせたりして、子どもの「本を読みたい」という気持ちを引き出します。

## ブックトークの目的と効果

具体的には、次のような目的と効果が期待できます。

### ①本を読むきっかけをつくる

子どもが本の楽しさを知ったり、読書に対する興味を引き出すことができます。

### ②新しいジャンルの本への興味を引き出す

紹介されなければ知らなかった、新しいジャンルの本との出会いを作ります。

### ③紹介した本の著者やテーマへの関心を持たせる

紹介した本だけではなく、著者の他の作品やテーマなど、本の背景に子どもの目を向けさせます。

### ④手に取られにくい本に光を当てる

見た目が地味などの理由で、読まれない本の利用を子どもに促します。

### ⑤ブックトークをする人と子どもたち、また子ども同士のコミュニケーションを深める

語りかけによって、ブックトークをする人と子どもの中に親しい関係を作ります。また、一緒に聞いた友達の反応によって本への興味が増すなど、子ども同士の関係も深めます。

## 対象年齢

小学校中学年以上におすすめです。

小学校中学年頃になると、読み聞かせから一歩前進し、自ら読書を始めようとしています。ブックトークは、この時期に子どもが本に手を伸ばすきっかけを作ります。また、様々なジャンルの本を紹介することで、子どもの興味の幅を広げることが期待できます。



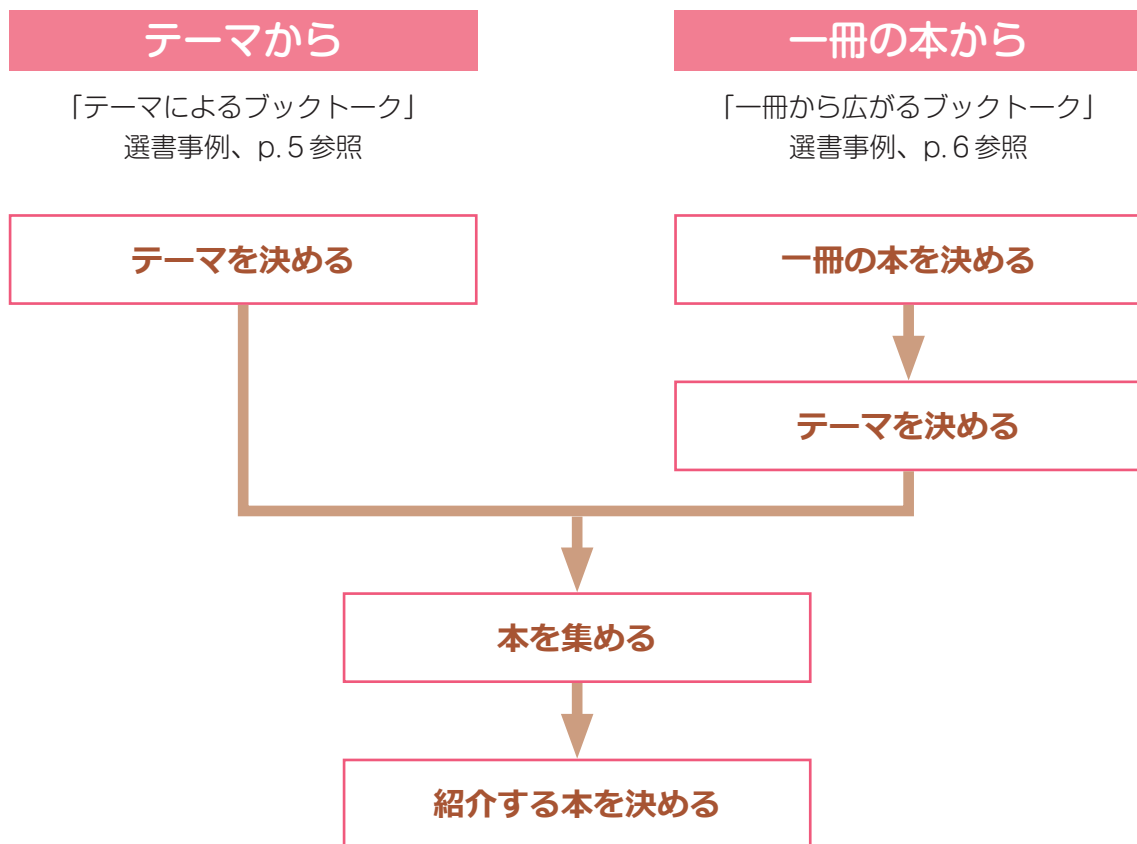
# 2 やってみようブックトーク

実践するにあたって、対象となる子どもたちや内容などについて把握が必要です。次の点を確認しておきましょう。

- ① **いつ**：日時やどのような機会に実施するのか把握しましょう。
- ② **どこで**：会場の大きさ、机や椅子などの設営状況を事前に確認しましょう。
- ③ **誰に**：対象となる子どもの学年や参加人数、読書状況を把握しましょう。
- ④ **内容**：学校の教科と関連したブックトークの場合、テーマの有無を確認しましょう。

## (1) テーマと本を決める

テーマや本の決め方には二つの方法があります。一つはテーマから決める方法です。テーマが先にありその内容に合った本の中から決めます。もう一つは、一冊の本から広げて決める方法です。まず一冊の本の内容からテーマを決め、その内容に合った本の中から、紹介する本を決めていきます。



## テーマ選びのヒント

テーマは動物、人間、自然、暮らし、道具、食べ物など様々なものが考えられます。さらに、学校の教科の関連、季節や行事、最近の話題などから子どもの興味・関心を引くおもしろいテーマ、広がりのあるテーマなど工夫して決めましょう。また、「テーマによるブックトーク」選書事例（p.5参照）のように、実践にあたっては子どもが親しみやすい楽しい表現を工夫しましょう。

### 学校の教科と関連した内容

例) 「昔の暮らし」「数」「車」「戦争と平和」「エイズ」など

### 季節、年中行事、学校行事

例) 「入学」「梅雨」「七夕」「夏休み」「運動会」「お正月」「卒業」など

### 最近の話題（ニュースなど）

例) 「東京オリンピック」「ノーベル賞」など

## 本を選ぶポイント

一回の実践で紹介する本の冊数は、時間が30分程度の場合は5～6冊、15分程度の場合は3～4冊が目安となります。実際の冊数より多く集め、ジャンルや難易度、バランスを考え、以下の点に注意して本を選びましょう。

### ジャンル

物語に限らず、神話、昔話、詩、伝記、科学、歴史、動植物、スポーツ、美術の本など、幅広く選びましょう。

### 難易度

同じ学年でも読書能力は異なります。子どもたちが自分の力に合わせて選ぶことができるように、読みやすいものから少し背伸びをして読むものまで、難易度に幅を持たせましょう。

### バランス

本に偏りがないように、日本の作品の他に外国の作品を入れたり、男の子が主人公の物語と、女の子が主人公となる物語を入れるなど、バランスを考えて選びましょう。

# 「テーマによるブックトーク」選書事例

対象：小学校中学年

身近な暮らしの中から建物としての「家」をテーマに選び、子どもが興味を持つように工夫し「どんな家に住みたい?」とします。次の5冊を選びました。

テーマ

どんな家に住みたい?

家が重要な役割を持つ有名な昔話



三びきのこぶた

瀬田貞二訳  
山田三郎画

福音館書店  
1967年

家の形や変化が楽しめる物語



おすのつぼに  
すんでいた  
おばあさん

ルーマー・ゴッデン文  
なかがわちひろ訳・絵

徳間書店  
2001年

イヌイットの家の作り方を紹介した写真絵本



「イグルー」を  
つくる

ウーリ・ステルツァー  
写真と文  
千葉茂樹訳  
あすなろ書房  
1999年

世界の家を写真とイラストで紹介した本



世界あちこち  
ゆかいな  
家めぐり

小松義夫文・写真  
西山晶絵

福音館書店  
2004年

動物の家づくりを紹介する科学絵本



こんにちは、  
ビーバー

佐藤英治文・写真

福音館書店  
2007年

# 「一冊から広がるブックトーク」選書事例

対象：小学校中学年

『ルドルフとイッパイアッテナ』は黒猫のルドルフが野良猫として一人前になるまでを描いた定評ある冒険物語です。



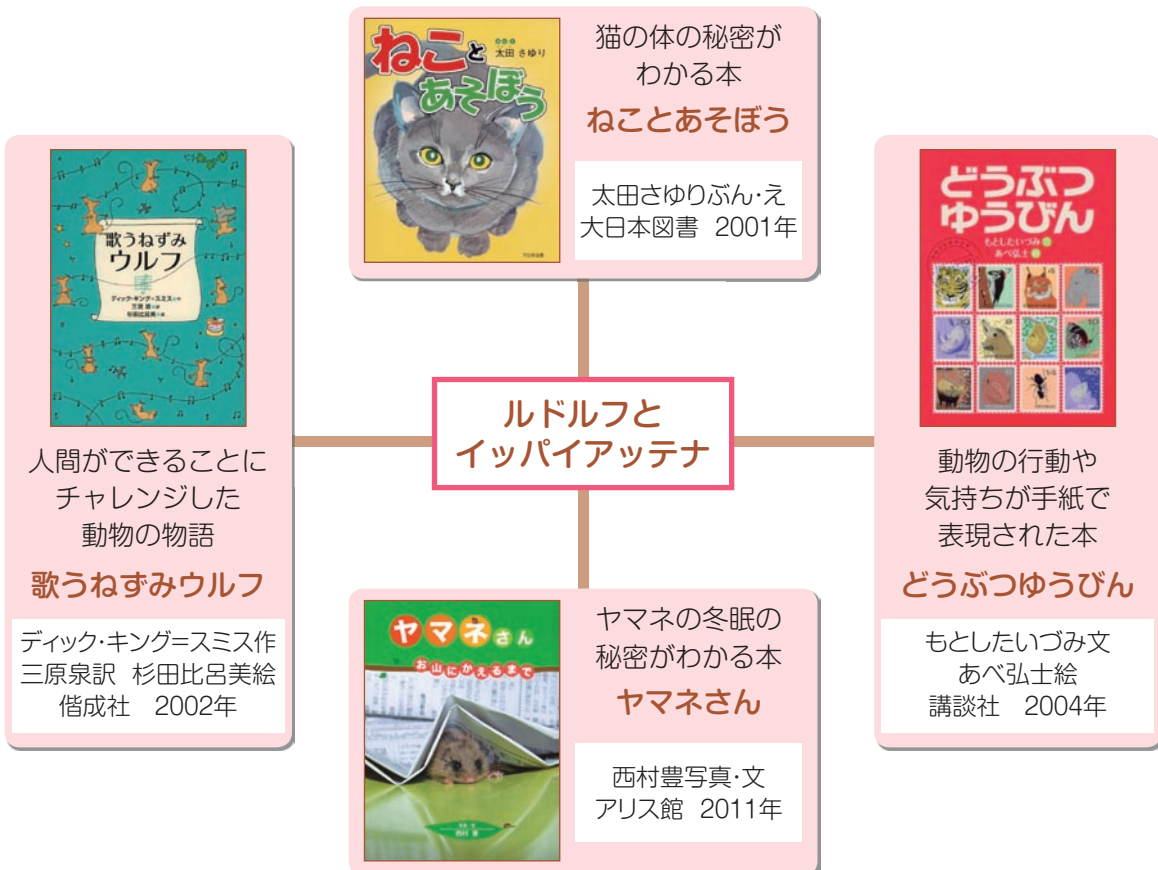
『ルドルフとイッパイアッテナ』

齊藤洋作 杉浦範茂絵  
講談社 1987年

あらすじから「冒険」、主人公が猫であることから「動物」「猫」、ルドルフとイッパイアッテナの関係から「友達」、イッパイアッテナが人間の文字が読めることを隠していたエピソードから「秘密」、イッパイアッテナという不思議な名から「名前」というキーワードを思いつきました。その中から、多くの子どもが興味を持つ「動物」に「秘密」を組み合わせ、テーマを「動物の秘密」とし、次の4冊を選びました。

テーマ

動物の秘密



## (2)全体の構成、紹介の方法を決める

### 全体の構成

テーマを深め、印象深く紹介するためには、全体の構成を工夫しましょう。メリハリの効いた構成にすると聞きやすくなります。

#### 例えば

- ① 導入は、子どもの興味を引くため、はじめにテーマをはっきり伝えます。子どもにとって身近な話題をテーマに結びつけて話したり、テーマに合わせた実物を見せたりして、上手に導入しましょう。
- ② 最初の本で子どもの注意を喚起し、次の本でさらに興味を盛り上げ、最後は読み聞かせやストーリーテリングを入れ、余韻を残して終わるなどの方法があります。
- ③ 簡潔に紹介する本と、長く丁寧に紹介する本を組み合わせます。ブックトークの中心になる本、自分がぜひ読んでもらいたいと思う本は時間をかけて紹介します。軽重をつけるとアクセントが付き、ブックトークをする人も、子どもも気持ちの切り替えができます。
- ④ 次の本へ移る時、何をキーワードにして次の本を紹介するかというつなぎの言葉が重要になります。テーマを意識しながら、共通のキーワードやエピソードを利用して、本と本を関連づけ、上手につなぐ言葉を入れましょう。

### 紹介の方法

紹介する本の特徴を活かし、それぞれの本の魅力を引き出す効果的な方法を決めましょう。

#### ①概略説明はポイントを押さえる

どんな人物が登場し、どのようなあらすじ（内容）の本であるかを説明します。物語の場合は読みたいという気持ちを持ってもらうために、結末は紹介しません。例えば、何か事件が起きる場合そのことに関して興味深いことを一つ話し、その先を少し教えると、子どもに知りたいという気持ちがわきます。

#### ②挿絵や写真を使う

本文中の挿絵や写真、図を見せながら特徴を説明すると具体的なイメージがわき効果的です。また、言葉だけではイメージしにくい部分は挿絵を効果的に活用しましょう。

#### ③朗読で作品の一部を体験する

危機的な場面や手紙の一節、興味深い現象など、ここぞという場면을朗読します。どのような文体かを紹介することもできます。ただし一部にとどめ、本文を朗読する部分と説明する部分を分けましょう。

#### ④現物や小道具を使う

本に登場する物の現物や小道具を用意し、見せることも子どもの興味関心を引きます。ただし、子どもの注意が本から外れないように気を付けましょう。

例) 『びゅんびゅんごまがまわったら』宮川ひろ作 林明子絵 童心社 1982年

びゅんびゅんごま (=ぶんぶんごま) を作り、どのような遊びか実演して見せます。

#### ⑤読み聞かせ、ストーリーテリングを入れる

いつも「さあ、次はどうなるでしょう」では子どもは欲求不満になります。読み聞かせやストーリーテリングを入れると、その場で本や物語を丸ごと楽しみ満足できます。



## (3)準備と練習

### 準備

#### ①シナリオを作成する (シナリオ事例、p.10～12参照)

話す内容を言葉に表すと、展開の流れが把握できます。シナリオを見直すことで必要に応じて、つなぎの言葉や紹介の方法を修正したり、本を入れ替えたりできます。また、耳から聞いてわかる言葉かどうかを確認し、人名、地名など耳慣れないものがある場合は説明を加えたり、わかりやすい言葉に言い換える、地図で示すなど工夫しましょう。

#### シナリオに記載する事項

- 紹介する本の順序
- 紹介するページ
- 動作 (図を指さす、読み聞かせをするなど)
- 紹介する内容
- 本と本をつなぐ言葉

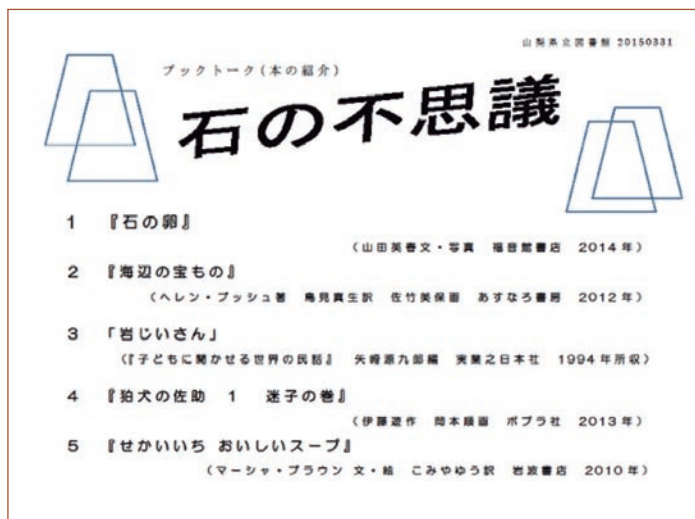
#### ②配布用ブックリストを作成する

子どもが本を探ることができるようブックリストを作成し、最後に配布しましょう。

子どもは、すすめられた本や興味を持った本はすぐに読みたいと考えます。そのため、できるだけブックトーク直後にその場で読んだり、借りたりすることができるように準備しましょう。また、同じ作者の本、シリーズの本も集めるとよいでしょう。

#### ブックリストに記載する事項

- ブックトークのテーマ
- 書名
- 著者名 (作家、画家、訳者など)
- 出版社名
- 出版年
- 内容紹介文 など



ブックリスト (見本)

#### ③紹介するページに目印を付ける

紹介するページには、スムーズに開くための目印として付箋を付けたり、しおりをはさみましょう。

#### ④現物や小道具を用意する

## 練習

- 手順や話す内容を覚え、全体を通して声に出して練習しましょう。
- 全体に要する時間や、言葉のつながりを確認し、必要があればシナリオを修正しましょう。子どもたちを本の世界に誘い込めるよう、滑らかな語りを目指しましょう。
- 本の見せ方や持ち方を、工夫しましょう。

### 本の見せ方・持ち方



本の表紙、紹介する挿絵や図をはっきり見せましょう。



本が揺れないように、本の下部分をしっかり持ちましょう。

# シナリオ事例 「石の不思議」

対象：小学校高学年

時間：30分程度

準備するもの：数個の色や形が異なる石（実物）

## シナリオの記載方法について

- 動作は□で囲ってあります。例) ○ページを見せて
- 表示したページ番号は、ここで使用した本によります。版が違う場合は、確認してください。
- 本の一部分を朗読する部分は太字になっています。
- 本と本をつなぐ言葉は二重下線を引いてあります。

## 導入

### 石を見せて

この石はある場所で拾いましたが、全部色や形が違っていました。世界にはもっといろいろな石があります。そこで今日は「石の不思議」というテーマで本を紹介していきます。さて、どんな石が登場するのでしょうか？

## 『石の卵』 山田英春文・写真 福音館書店 2014年

### 表紙を見せて

これは丸い石です。どこにでも転がっている普通の石に見えますが、この石をすばっと輪切りにしてみると、

### p.2～3を見せて

中には不思議な、怪しい模様が！誰か人間が作ったものではありません。この石は「ドラゴンの卵」と呼ばれ、世界各地で採れる石です。

### p.8～9を見せ、1行目を読む

これもドラゴンの卵。「ドラゴンの卵」のもようは、ひとつとして同じものはありません。よく見てください。この模様、怪物や昆虫、人の顔や角の生えた動物に見えませんか？

### p.14を見せ、1行目を読む

これは、もう一種類の石の卵「サンダーエッグ」、日本語で「雷の卵」。サンダーエッグを、すばっと輪切りにしてみると、

### p.26を見せて

星形の模様や、

### p.38～39を見せて

泡の模様、そして宝石が入ったものもあります。

### 表紙を見せて

ドラゴンの卵もサンダーエッグも、どちらも割ってみないと中がどんな色でどんな模様なのかわかりません。不思議な石ですね。なぜこの模様ができたのか知りたい人は、本の中に理由が書いてあるので読んでください。

『海辺の宝もの』 ヘレン・ブッシュ著 鳥見真生訳 佐竹美保画 あすなる書房 2012年

表紙を見せて

『石の卵』では、石の中に隠された不思議な模様を楽しみましたが、約200年前のイギリスに住んでいたこの12歳のメアリーは、「変わり石集め」をすることが大好きな少女でした。

p.8、10～15行目を読む

メアリーがどんな石を集めていたかという、**とうさんが海辺からもち帰ってくる不思議な石が、メアリーは大好きだった。(中略)「こういうものは全部、もともとは生きていて、海に住んでいたんだ」とうさんが教えてくれた。**

カバーのイラスト(表紙の裏側)を見せて

とうさんはメアリーと兄のジョセフに大昔の海の生物の変わり石を集める方法を教えてくれました。これがメアリーが集めた変わり石の一つ、アンモナイトです。メアリーは突然亡くなったとうさんに代わって、変わり石を探し、ピカピカに磨いて売りました。

p.202を見せ、7～10行目を読む

ある日、兄さんが海辺の崖で特別なものを見つけました。**ジョセフは無言で、上着の下からなにかをとりだした。大きなひらたい頭蓋骨だった。(中略)円錐形の歯がびっしりとならんでいる。**メアリーは残りの骨のことがずっと気にかかっていた。

p.211を見せて

強風が続き崖下のごろごろした岩が海へ洗い流された時、斜面から背骨の一部がのぞいていることにメアリーは気づきました。

『岩じいさん』 『子どもに聞かせる世界の民話』 矢崎源九郎編 実業之日本社 1994年所収

表紙を見せて

『海辺の宝もの』でメアリーが掘り出した変わり石は、様々な生き物の死がい閉じ込められた化石でしたが、昔話の中には人間の姿にそっくりな岩が登場します。

あるところに欲張りな兄さんと、働き者の弟がいました。弟は毎日、山の荒れ地を耕し畑を作りました。ところが、おじいさんの姿にそっくりな岩だけはどうしても取り除くことができません。そこで、弟はこの岩に向かって話しかけたり、上に荷物を置いたりしました。ところがある日、弟がいつものように話しかけると、

p.92、上段、13～17行目を読む

**「やれ、わしも、くたびれました。」(中略)こいつをわしに乗せるのは、やめてくださいよ。」**

岩じいさんは弟に1メートルの布袋を持ってくるように言います。

p.92、下段、6～11行目を読む

**すると、どうでしょう。岩じいさんは、(中略)銀でいっぱいになりました。**この銀は、弟がよく働いた褒美でした。これを知った兄さんは、無理矢理岩じいさんに銀を出させました。欲を出して岩じいさんの口やお腹の中の銀まで取ろうとして兄さんは

p.94、下段、8～13行目を読む

**「まだ、まだ。」**といいながら、**(中略)ひっぱっても、ぬけません。**兄さんが泣いてもわめいても、岩じいさんは堅く口をむすんだままです。さて、兄さんはどうなってしまうのでしょうか？

この昔話「岩じいさん」は『子どもに聞かせる世界の民話』の中に入っています。

『**狛犬の佐助 1 迷子の巻**』 伊藤遊作 岡本順画 ポプラ社 2013年

表紙を見せて

『狛犬の佐助 1 迷子の巻』には、石を彫って作られた二頭の狛犬が登場します。「岩じいさん」と同じようにしゃべることができ、さらに自由自在に動くこともできます。

p.7、8～13行目を読む

お社の前には、二頭の狛犬がいました。(中略)ほかの神社の狛犬とちがっているのは、しょっちゅうおしゃべりをしていることでした。

表紙と裏表紙を同時に見せて

右側の狛犬が「あ」、左側の狛犬が「うん」です。二頭がなぜしゃべることができるかというと、狛犬を彫った石工の親方の魂が「あ」の中に、弟子の佐助の魂が「うん」の中に宿り続けているためです。

p.13、13行目～p.14、3行目を読む

佐助はしゃべったり、動いたりしたくてたまりませんが、親方は「**なにがまるくなっただ。何が狛犬らしくなってきただ。軽々しく動くんじゃない。(中略)親方はたださえこわい顔をさらにこわくして、佐助をにらみつけ**」叱ります。

ある日、いなくなった飼い犬モモを探してほしいと願掛けに見習い大工の耕平が来ました。それから、ちょくちょく神社を訪れるようになった耕平は、お社の前で手を合わせた後、モモに似た佐助に話しかけてくれました。

耕平を何とかモモに会わせたいと思っている佐助は、モモに似た犬を見かけたと聞き、ある方法で耕平に伝えました。探しに出かけようとする耕平が心配になった佐助は、

p.129を見せて、p.128、7行目～p.129、2行目を読む

「**ああ。こうしちゃいられない。(中略)財布に気を取られている耕平は気づいていません。**」佐助は耕平の洋服のポケットに、自分のしっぽのかけらの石を入れ、親方が止めるのも聞かずに神社の外に出てしまいました。ところが耕平に気づかれ、ポケットから出され、その場から動けなくなってしまいました。いったいどうすればいいのでしょうか？

『**せかいいち おいしいスープ**』 マーシャ・ブラウン 文・絵 こみやゆう 訳 岩波書店 2010年

表紙を見せて

佐助は頭を使って神社の外に出ることができましたが、人間も頭を使うと石をある料理の材料にすることができます。

読み聞かせをする

まとめ

紹介した本の表紙を順に見せる

今日は、「石の不思議」をテーマに本を紹介しました。初めに紹介した本は、石の中に不思議な模様やきらきらする宝石が隠されていることがわかる『石の卵』。次は巨大な化石を発見した少女の伝記『海辺の宝もの』。そして、昔話から働き者の弟が褒美として銀をもらった「岩じいさん」。神社の狛犬の秘密が明かされた『狛犬の佐助 1 迷子の巻』。最後に、石を材料にして作った『せかいいち おいしいスープ』。さて、石の不思議がたくさん見つかりましたか？

本のリストを見せ、配る

今日紹介した本は図書館にあります。ブックリスト (p.8 参照) を配りますので、もし読みたいと思ったら手に取ってみてください。

## (4)ブックトーク本番

本番は落ち着いて臨みましょう。ブックトークをする人が緊張していると、子どもたちも緊張してしまいます。子どもが集中して聞くことができるよう、次の点に注意しましょう。

### ①子どもたちから本が見やすい環境を整える

始める前に立ち位置から、全員に本の挿絵や写真、図が見えているか確認し、必要があれば子どもに見える位置に移動してもらいましょう。

### ②紹介した本を並べる

ブックトークの最後に全ての本をもう一度紹介し、表紙が見えるように並べましょう。

### ③後ろの子どもまで届くように大きな声で伝える

大きな声で、ゆっくり、はっきり話しましょう。一番後ろに座っている子どもに声を届けるように意識すると、聞こえやすい声になります。

### ④子どもの反応を大切に

学年やクラスによって、異なる反応があります。全員の表情を見ながら、反応を確かめて進めます。

## (5)振り返り

次回に活かすため、次の点について振り返りをしましょう。

①子どもの反応や、反省点などを記録しましょう。

②シナリオでよくなかった部分がある場合は、修正しましょう。

③シナリオやブックリストを保存し、次の機会に活用しましょう。校内や館内などでデータを共有できる場合は、互いに交換して活用しましょう。

④常日頃から、ブックトーク用の本を積極的に探し、見つけた場合は対象年齢やテーマ、主人公、あらすじ、他の本との繋がりなどをメモしておくといでしょう。

## (1)著作権について

本には著作権があります。コピー、写真撮影など複製する時（学校で授業のために担任が行う場合を除く）は各出版社に問い合わせ、許諾を得ましょう。

日本書籍出版協会ホームページに児童書四者懇談会が作成した「お話し会・読み聞かせ団体等による著作物の利用について」が掲載されていますので、参考にしましょう。

URL <http://www.jbpa.or.jp/guideline/readto.html>

## (2)参考図書

テーマ探しや本選び、シナリオ作成など実践の際に役立つ参考図書を紹介します。学校での実践研究をまとめた本も多数あります。

### 雑誌

「ブックトークの意義とその効果的方法」松岡享子著

「学校図書館」第287号（1974年9月号）全国学校図書館協議会 1974年

「こどもとしょかん」第73号 東京子ども図書館 1997年

### 図書

『ブックトーク入門』岡山市学校図書館問題研究会編 教育史料出版会 1986年

『ブックトーク』全国SLAブックトーク委員会編 全国学校図書館協議会 1990年

『ブックトーク』児童図書館研究会編集 児童図書館研究会 1992年

『ブックトーク 2』児童図書館研究会編集 児童図書館研究会 1993年

『ミニブックトークをどうぞ』北畑博子著 連合出版 2004年

『だれでもできるブックトーク』村上淳子編著 国土社 2008年

『キラキラ応援ブックトーク』キラキラ読書クラブ著 岩崎書店 2009年

『今日からはじめるブックトーク』徐奈美著 少年写真新聞社 2010年

『だれでもできるブックトーク 2 中学・高校生編』村上淳子編著 国土社 2010年

『学校ブックトーク入門』高桑弥須子著 教文館 2011年

『授業が生きるブックトーク』（新版）鈴木喜代春監修 ブックトーク研究会編 一声社 2011年

『学校司書と先生のためのすぐできるブックトーク』

渡辺暢恵、小柳聡美、和田幸子、齋藤洋子著 ミネルヴァ書房 2012年

『授業で役立つブックトーク』上島陽子著 少年写真新聞社 2012年

『ひと目でわかるブックトーク』「この本読んで!」編集部編集 越高一夫監修 読書サポート 2012年

『その本、読みたい!低学年』村上淳子編著 国土社 2013年

『その本、読みたい!高学年』村上淳子編著 国土社 2013年



発行日 平成27年3月31日  
編集・発行 **山梨県立図書館** (かいぶらり)  
YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY  
〒400-0024  
甲府市北口2丁目8-1  
TEL 055-255-1040  
FAX 055-255-1042  
URL <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

この冊子に関するお問い合わせ先：山梨県子ども読書支援センター（山梨県立図書館内）

---

\*当館ホームページ上からもこの冊子を見ることができます。

\*本冊子は個人的な目的に使用する以外で複写・転載することはお控えください。